

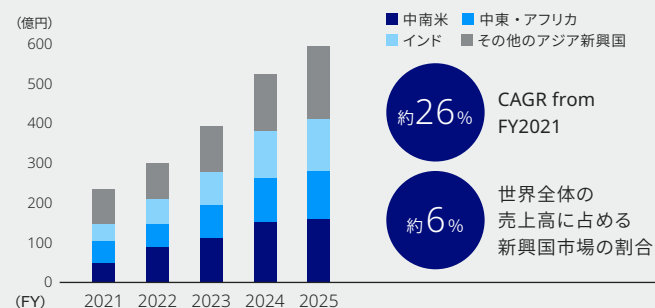
成長ポテンシャルの高い市場

新興国市場と中国市場の 持続的な成長機会

内視鏡医療のさらなる発展が見込まれる市場における
当社の強み、市況、今後の成長ポテンシャルを解説します。

イメージ写真 (インド)

医療事業における新興国市場の売上成長推移



約2,000人

FY2025における、当社が
関わったトレーニングコースへ
参加した新興地域
の医療従事者の人数*1

人口10万人あたりの 内視鏡医数*2

タイ	3.2人
ベトナム	2.5人
マレーシア	1.4人
インド	0.7人
フィリピン	0.5人
インドネシア	0.3人
〔参考〕日本	27.7人
〔参考〕アメリカ	5.0人
〔参考〕中国	2.8人

*1 当社主催に加え、NGO、学会や病院との共催等も含む、オンライン／ハイブリッド／オンサイト トレーニングコースのインド、インドネシア、フィリピン、ブラジル、メキシコ、南アフリカ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦における合計参加人数

*2 一般公表データより当社作成

新興国市場における成長機会と医療基盤強化への貢献

新興国では人口増加や経済成長に伴い、医療機器の需要が拡大しています。特に、がん罹患率の上昇が見込まれる中、消化器内視鏡による早期発見・治療の重要性が高まっています。一方で、専門性の高い内視鏡医の不足が課題であり、当社はインド、中南米、アフリカなどでの内視鏡医育成への投資を強化しています。現在、当社の売上高に占める新興国市場の割合はまだ大きくないものの、ここ数年の年平均成長率（CAGR）は25%以上と高く、今後も高い成長が期待できます。

インド

世界最大の人口を擁するインドは急成長を遂げ、いまや世界第5位の経済大国です。オリンパスは2009年に現地法人である Olympus Medical Systems India (OMSI) を設立し、本格的にインド市場へ参入しました。当時は中古の再生内視鏡が主流で、製品の品質や患者さんの安全性、医療教育の面で課題がありました。こうした状況を改善するため、OMSIはトレーニングの普及と内視鏡医療に関する啓発・意識改革を中心に戦略を展開してきました。最新の内視鏡システムの提供やワークショップなどを通じて医療従事者の知識と技術の向上を支援した結果、インドの内視鏡医療の質は大きく向上し、中古市場はほぼ消滅しています。

インドでは急速な経済成長とともに、医療分野への投資が強化されており、高度医療への需要は今後さらに拡大する見込みです。また、当社では、インド・テランガナ州ハイデラバードにて、研究開発戦略の一環で「オフショア・ディベロップメント・センター（ODC）」の活動を開始し、数年後には自社研究開発センターの開設を目指して準備を進めています。今後も地域の医療基盤強化への貢献と持続的な成長の両立を目指して取り組んでまいります。



ハイデラバードにおけるODC

COLUMN

インタビュー動画はこちら
<https://youtu.be/-pthQDTurIc>

消化器内視鏡の発展を通してインドの生活の向上に貢献



Asian Institute of Gastroenterology
(AIG) インド・ハイデラバード
理事長/消化器内科・内視鏡治療科医長

D ナゲシュワール・レディ 医師

インド・ハイデラバードの大手医療機関Asian Institute of Gastroenterology (AIG)の理事長であるD ナゲシュワール・レディ博士は、医師である祖父と父の影響を受け医学の道を志し、在学中に消化器内視鏡学を専門に学びました。レディ博士は、フェローシップ期間中に内視鏡手術で患者さんの命が救われるのを目の当たりにしたことをきっかけに、内視鏡治療への強い関心を持ちました。

AIGは、社会的・経済的な背景の異なる人々の医療環境を改善するために、「世界中の患者さんが、医療技術、インフラならびに人材の側面において、先進国と同等の高水準のケアを受けるべきである」という理念のもとに設立されました。しかしながら、現実にはインド国内の医療格差は依然として存在しており、農村部や郊外に住む人々の多くは、質の高い医療を受けることができていないとレディ博士は言います。

「新興国のがん患者の生存率は先進国より低く、例えばインドの大腸がん患者の5年生存率は約30%^{*1}であるのに対し、日本では約70%^{*2}に達しています。がん治療には、定期的な検診による早期発見と早期治療が重要です。一方で、インドではがん検診を行う施設が少なく、医師の数や研修の機会も十分ではありません」

レディ博士とAIGは、適切な医療を受けることが難しい地域の人々の医療水準を向上させることを目的に、内視鏡の移動診療に着手しました。オリンパスは必要な医療機器の提供を通して移動診療の導入に貢献しました。内視鏡の移動診療を活用することで、農村部の人々に対して、これまで見つかることができなかった疾患の発見に役立つ上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査ならびに基本的な肝機能検査を提供することができ、結果として、治療を必要としていた多くの人々の命を救うことにつながりました。例えば、妊娠中にマロリー・ワイス症候群^{*3}を発症した女性に対して、診断後すぐに内視鏡による止血治療を施したことで、大事に至らずに済んだ例があります。

「この30年間で、消化器内視鏡は劇的な変化を遂げ、純粋な検査法から主要な治療法へと発展し、さらには消化器疾患の患者さんに施す治療法も変わりました」

レディ博士はまた、かつて多くの消化器疾患には、手術などの高侵襲な治療が行われていたと述べています。消化器内視鏡検査は、がんを含む病気を早期に発見し、切除しやすくすることで、患者さんの生活に大きな変化をもたらしています。早期に発見されることにより、胃がんと診断された患者さんは10年以上の生存も可能になりました。また、胆管炎などの重症の患者さんでも、内視鏡治療により治療する可能性があるとして



レディ博士は指摘しています。

インドのヘルスケア産業は、インドで雇用機会が多い産業の一つでありながらも、内視鏡医は比較的少ないのが現状です。例えばインドの内視鏡医は人口10万人あたり0.7人ですが、日本では人口10万人あたり27.7人であり、高度な訓練を受けた内視鏡医をいかに増やすかが課題です。

レディ博士は、オリンパスがAIGとの協働を通して、最先端のトレーニング施設を創設し、500人以上の内視鏡医にトレーニングを提供したことについて、インドの医療改革に大きく貢献したと述べています。「オリンパスは、AIGやインドの学会と連携し、年間150回以上にもおよぶ内視鏡トレーニングの支援や、医療機器の迅速な修理サービスを提供してくれています。特に、内視鏡医の育成には大きな意義があり、これはインドの人々の健康や生活にも大きく寄与しています。このような取り組みを通してオリンパスは、製品以上の付加価値を私たちに提供してくれていると感じています」

レディ博士は、将来の希望は「すべての人が医療を受けられるようになること」であると語ります。「インドでは人口も経済も急成長し、がんなどの生活習慣病が増加傾向にあります。オリンパスのようなパートナーとの協業を通して、インドの医療環境がよりよくなるための最大限の努力を続けていくことで、明るい未来が見えてくると信じています」

^{*1} World Health Organization, (n.d.), GCO - SURVCAN. Retrieved from International Agency for Research on Cancer:
<https://gco.iarc.fr/survival/survcn/dataviz/table?survival=5&populations=0&cancers=90>

^{*2} 国立研究開発法人国立がん研究センター 院内がん登録生存率集計 がん情報サービス
https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/hosp_c_reg_surv/index.html
 (参照2023年3月16日)

^{*3} 食道と胃の境目の部分(噴門部)が傷つき、粘膜が縦に裂けて出血してしまう状態

ブラジル

ラテンアメリカ経済の中心ブラジルは、オリンパスにとって同地域最大の市場であり、約8,000の施設が内視鏡を使った医療を提供しています。現地法人Olympus Optical do Brasilは、顧客中心の戦略と部門横断的な連携により、極めて高い顧客獲得率を実現しています。価格競争ではなく、医師のニーズに応じた最適なソリューションの提供を重視しています。2024年には消化器内視鏡システム「EVIS X1」をブラジル市場にも導入しており、現地医師による検査や診断に貢献することが期待されています。

中東・アフリカ

総人口約18億人を抱える中東・トルコ・アフリカ地域は、内視鏡専門医に対する教育や内視鏡システム、修理サービスへのニーズが高まっている成長市場です。現地法人Olympus MEA FZ-LLC (OMETA) が事業を展開している中東やアフリカなど全72カ国では、それぞれの国が全く異なるニーズと購買力を抱えています。サウジアラビア王国のように最先端の製品を欲する国々がある一方で、アフリカの多くの国々は医療インフラ立ち上げのため、早急に基礎的な支援を得たいと考えています。こうした多様なニーズに応えるべく、当社は各国地域の契約代理店や医療従事者と緊密に協力しながら、最先端の内視鏡製品とサービスを継続的に提供するプロジェクトを推進し、現地の持続可能な医療基盤の構築に貢献しています。

COLUMN

アフリカの内視鏡検査への道を開くケニアプロジェクト*1

アフリカの中で経済発展が進む国の一つであるケニアでは近年、非感染性疾患 (NCDs*2) の死因割合が増加しており、その中でもがんが深刻な問題となっています。これに対し、ケニアの保健省はがん検診の強化に取り組んでおり、特に大腸がんの早期発見を目指して45歳以上の国民に対するスクリーニングを推奨しています。しかし、精密検査を行うための内視鏡医が不足しており、医師の教育とスキル向上も急務となっています。

オリンパスは、ケニアにおける内視鏡医療の発展と医療インフラの強化に貢献するため、内視鏡検査へのアクセス拡大に取り組んでいます。この記事ではケニアプロジェクトに関わったオリンパスのガバメントアフェアーズ 国際協力担当が当社の取り組みを語ります。



ガバメントアフェアーズ
国際協力担当
シニアディレクター

渡辺 幸一郎

日本では、がんの早期発見・早期治療を可能にする技術が普及しているものの、ケニアはがんに罹る方が増加傾向にある中で、医師がそのような技術や知識を修得していく機会が求められています。そうした課題に対応するため、オリンパスは日本政府支援による国際医療協力事業を開始し、2023年から3年計画で、ケニアの医師たちに向けた内視鏡の研修事業に取り組んでいます。当社は研修全体の企画、運営、コーディネーションを担当しており、東京のスタッフと現地側スタッフが連携してサポートを続けています。

このプロジェクトでは、オリンパスと九州大学病院の国際医療部が連携し、ケニア国内の病院から集まった医師たちに内視鏡に関する技術研修を実施しています。まずオンラインで、日本の内視鏡診療の最新状況

インタビュー動画はこちらから
<https://youtu.be/m0NwYAlbDlk>

などについて講義を行い、その後、日本の医師がケニアの首都ナイロビの病院に赴いて、現地で講義と臨床指導を行いました。臨床指導では、消化管の上部と下部の内視鏡検査の実技指導を実施し、基礎的な診断技術や内視鏡の操作方法を学びました。続いて、ケニアの医師たちが来日し、九州大学病院で約3週間にわたって、内視鏡を用いた検査や治療の見学、技術指導を受けました。そこでは、内視鏡検査や内視鏡的治療のさまざまな症例を見学したり、シミュレーターモデルを用いた実技指導を受けたりして、実践的な知識やスキルの習得に努めました。

今回研修に参加したケニア人医師の一人は、「内視鏡検査とは何かということや、診断と治療の両面で内視鏡検査がどれだけ重要であるかということ学ぶことができました。ここで得たスキルや知識を母国の同僚に伝える絶好の機会となりました」と語っていました。ケニアと日本で、医療環境は大きく異なりますが、医療従事者の方が、知識や技術の習得に熱心なのはどの国でも共通だと思います。国や文化が違っても、患者さんのためにという気持ちは皆同じです。それぞれ何が違うかをお互いに理解した上で、どこまで一緒に歩み寄れるかを見極めながら、活動を長く続けていくことが重要だと考えています。



*1 このプロジェクトは、厚生労働省から委託を受けた令和6年度の医療技術等国際展開推進事業であり、国立研究開発法人国立国際医療研究センターが主体となって実施しています。

*2 非感染性疾患 (Non-communicable diseases): 不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒、大気汚染などにより引き起こされる、がん・糖尿病・循環器疾患・呼吸器疾患・メンタルヘルスをはじめとする慢性疾患をまとめて総称したものの

中国市場における成長機会とトータルソリューションの提供

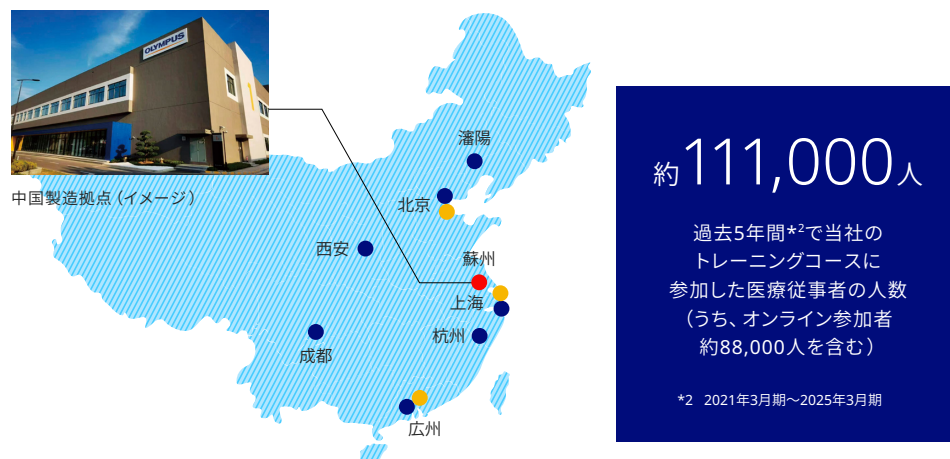
オリンパスは約50年前に中国市場へ参入してから、他社に先駆けて事業基盤を強化してきました。医師や病院・学会との積極的な連携によって、内視鏡医療の普及に努め、医療従事者との信頼関係を構築してまいりました。また、並行してサービス拠点におけるアフターサービスの体制やトレーニング支援の強化を図ることで、医師が安心して内視鏡検査・治療を行えるようサポートしてきました。

現在では、上海・北京・広州の3カ所の自社トレーニングセンターに加え、全国20近く*1のトップ病院との協業を通じて、中国全土にわたり内視鏡医の育成を支援するとともに、全7拠点のサービスセンターにおいて、内視鏡製品の点検やメンテナンスに対応しており、業界トップクラスの体制を構築しています。また、中国市場に向けて「メイド・イン・チャイナ」の製品を提供できるよう、江蘇省蘇州市に製造拠点を設立して、準備を進めているところです。2025年8月には、最新イメージングを搭載した上部消化管ビデオスコープが、江蘇省薬品监督管理局（MPA）より医療機器登録証を取得しました。引き続き、現地当局と緊密に連携しながら製造ライセンスの取得などを進めており、2025年中の現地での生産開始を目指しています。今後も付加価値の高い差別化された製品の投入だけでなく、サービスやトレーニング活動を含めたトータルソリューションを提案していくことで、事業成長を実現してまいります。

*1 2025年9月現在

中国のサービスセンター・トレーニングセンター・製造拠点

● サービスセンター ● トレーニングセンター ● 製造拠点（準備中）



> 中国政府による政策

- 「中国製造2025」を公表（2015年）：現状の組み立て中心の製造国家から、研究開発を含めた真の製造大国になることを目指すことが発表されました。2049年にグローバルのトップ製造国家の仲間入りをすることが目標です。ターゲット分野は10あり、その中の一つにバイオ技術、医療機器分野が含まれています。
- 「健康中国2030」を公表（2016年）：中国国民の健康を増進させ、健全な国家を建設する方針を打ち出し、重点項目の一つとして「がんを含む慢性疾患の早期診断・早期治療」や医療サービスの地域間格差の是正、医療機関の拡充などが掲げられています。またそれを支える医療産業の技術革新、発展を目指しています。
- 「1,000の県級病院総合能力向上実施計画」を公表（2021年）：2025年までに全国で1,000の県級病院を3級病院と同等の医療水準に引き上げて、県域医療センターとしての役割を発揮させることを目指した方針が掲げられています。
- 「大規模設備の更新と消費財の新旧交換を推進するための行動計画」を公表（2024年）：工業、農業、建築、交通、教育、文化・旅行、医療の7分野に重点を置き、2027年までをターゲットとして設備と消費財を新旧更新し、ハイエンド化、スマート化（AIを活用）、グリーン化を目指す計画。医療設備では内需拡大と病院の構造改革に主眼を置き、地域間格差是正、医療の質の向上、効率化を狙い、ハイエンド大型医療機器、イノベーション医療設備、AI関連商品のチャンスが高いといわれています。
- 購入量ベース調達制度（VBP：Volume Based Procurement）：高額消耗品の医療コスト削減を当初の目的として、国、省連盟、省、市ごとに展開されている集中購買の調達プログラム。
- 反腐敗運動：すべての公立病院を対象とした反腐敗監査に関するキャンペーン。病院での入札活動の停止や遅延に伴い、主にキャピタル製品が影響を受けます。2023年7月から始まりましたが、不正が再発しないような流通の規範化や病院の購買プロセスを変えるなど、恒久的な取り組みにすることが2024年5月に発表されています。

中国の潜在市場

